

## 「ワンヘルス」の実践に関する要請について

令和4年2月16日（水）、藏内勇夫会長は、首相官邸を訪れ、岸田文雄内閣総理大臣に対して、「新型コロナウイルス感染症等動物由来の人と動物の共通感染症に対する『ワンヘルス』の実践に関する要請」（別記）を行うとともに、総理に11月に福岡市で開催される「第21回アジア獣医師会連合（FAVA）大会」へのご臨席を依頼した。

岸田総理と面談後の記者団からの取材に対し、藏内会長は「27年ぶりにアジア獣医師会連合（FAVA）大会が福岡で開催されるので、総理のご臨席をお願いした。アジアは感染症の発生源になっているが、福岡はアジアへの窓口となっているので、感染症研究の拠点を設置してほしいと要請した。総理には福岡県のワンヘルスに対する取組みを高く評価していただいた。また、中長期的な感染症対策が必要とのご理解もいただいた。総理のアジア獣医師会連合大会へのご臨席については、公務と調整して、出席できるか前向きに検討したいとのことだった。」と述べ、今後への期待を表した。

### 【別記（要請書）】

内閣総理大臣

岸田文雄 様

#### 新型コロナウイルス感染症等動物由来の 人と動物の共通感染症に対する 「ワンヘルス」の実践に関する要請

令和4年2月

公益社団法人 日本獣医師会

日本獣医師連盟

#### 新型コロナウイルス感染症等動物由来の 人と動物の共通感染症に対する 「ワンヘルス」の実践に関する要請

日頃より、獣医師及び獣医療施策の推進につきご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症は隣り間に全世界にまん延し、パンデミックとして人類を恐怖に陥れており、我が国の国民生活や経済活動にも多大なる影響を及ぼしています。本感染症は、人から人への感染ばかりでなく、人から猫などの愛玩動物にも感染が見られる動物由来の人と動物の共通感染症（以下「人獣共通感染症」という。）とされています。同様に、SFTS（重症熱性血小板減少症候群）、MERS（中東呼吸器症候群）、SARS（重症急性呼吸器症候群）、新型インフルエンザ、狂犬病、牛海綿状脳症（BSE）、エボラ出血熱等の新興・再興感染症はいずれも動物由来の人獣共通感染症であり、その予防やまん延防止のためには人の医療と動物の医療の両側からのアプローチが必要とされています。

日本医師会と日本獣医師会は、人の健康、動物の健康、野生動物を含む環境の保全の三つの分野の関係者が一体となり連携して対応する「ワンヘルス」の概念が世界的に普及していることを踏まえ、平成25年11月に「ワンヘルスに基づく学術協力の推進に関する協定」を締結しました。更にこれを契機に、全国の医師会と獣医師会も同様の協定を締結し、全国的な「ワンヘルス」の実践体制が構築されました。このような「ワンヘルス」の実践体制を基盤として、平成28年11月には「第2回世界獣医師会－世界医師会ワンヘルスに関する国際会議」を開催し、世界における「ワンヘルス」の実践の礎となる「福岡宣言」を採択しました。

その開催地となった福岡県は、「福岡宣言」発祥の地として、令和4年1月に日本国内はもとより世界的に類を見ない「福岡県ワンヘルス推進基本条例」を公布・施行し、「福岡県ワンヘルス国際フォーラム」の開催など県民一体となって「ワンヘルス」の実践活動を推進しています。さらに同県は、「ワンヘルス」実践の中核的拠点として「ワンヘルスセンター」を全国に先駆けて整備するとともに、アジア諸国由来の人獣共通感染症や薬剤耐性菌の対策を担う「アジア新興・人獣共通感染症センター（仮称）」の九州設置について、九州地方知事会及び全国知事会にも要請を行っております。

一方、近年の新興・再興感染症の多くは動物由来の人獣共通感染症であるにもかかわらず、現在の国及び地方自治体における「ワンヘルス」の実践体制は不十分と言わざるを得ません。即ち、動物から人への感染症は厚生労働省の所管、動物から家畜・家禽への感染症は農林水産省の所管という縦割りとなっています。しかも、犬や猫などの愛玩動物及び野生動物の感染症についての研究やサーベイランス

については、両省の所管事項に関係しない限り、担当する国の機関は存在しない空白領域となっています。このような国の危機管理体制が不備な状況の下では、動物由来の新興・再興感染症の発生を事前に察知することは困難であり、必要な感染症対策が後手に回り、再び今回の新型コロナウイルス感染症のような甚大な被害を招くことが強く懸念されます。

つきましては、動物由来の人獣共通感染症等に適切に対処し、安全・安心な人と動物の共生社会を構築するため、感染症に対する危機管理施策の整備・充実及び「ワンヘルス」の実践体制の構築について下記のとおり要請いたしますので、特段のご高配を賜りますようお願いいたします。

記

1 「新型インフルエンザ等対策特別措置法の一部を改正する法律案に対する附帯決議」の「感染症対策を一元的に担う危機管理組織の在り方（日本版CDC等の設置）を検討する」に当たって、人の感染症研究を担う国立感染症研究所と動物の感染症を担う国の機関が連携・協力し、人と動物の健康及び野生動物を含めた環境保全等の「ワンヘル

ス」を実践するための体制の構築

- 2 特に、日本のみならずアジアを中心とした海外の公衆衛生や福祉の推進に寄与するため、新興・再興感染症等の発生子防及びまん延防止や薬剤耐性菌対策に加え、人と動物の健康、環境保全などを含めた「ワンヘルス」の推進
- 3 1の具体的な体制構築として、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究部門を動物検疫所及び動物医薬品検査所と一括統合して動物の感染症を担う国の機関として位置付け、現行の家畜・家禽にとどまらず、愛玩動物及び野生動物を含む全ての動物の感染症等の調査研究、医薬品開発、水際防疫等を実施する体制の確立
- 4 緊急事態における地方での人と動物の医療機関、大学の医学部と獣医学部等関係機関の感染症防疫に係る連携・協力による情報共有、早期診断、医療資材の提供等の緊急事態措置の実施体制の強化を図るため、国の機関としての「アジア新興・人獣共通感染症センター(仮称)」の九州への設置及び地方公共団体における動物保健衛生所等「ワンヘルスセンター」の設置への支援 以上



図1 藏内会長と岸田総理



図2 左から、藏内会長、岸田総理、松山政司、大家敏志参議院議員



図3 記者団からの取材に答える藏内会長(左から、大家敏志参議院議員、藏内会長、松山政司参議院議員)

2022/2/17(木)

11月のアジア連合大会  
藏内獣医師会長  
首相に出席要望  
福岡県議で、日本獣医師  
会会長を務める藏内勇夫氏  
が16日、岸田文雄首相と官  
邸で面会し、福岡市で11月  
11〜13日に開催予定のアジ  
ア獣医師会連合大会への出  
席と支援を要望した。  
面会後、取材に応じた藏  
内氏は、新型コロナウイルス  
を含む感染症対策には、  
人と動物の健康と自然環境  
を一体的に守る「ワンヘル  
ス」の推進が重要だと主  
張。その上で同大会につい  
て「『ワンヘルス』を世界  
に訴える良い機会になる」と  
首相に訴えたという。首  
相は理解を示した上で、  
大会出席については前向き  
に検討すると応じたとい  
う。

図4 西日本新聞朝刊